

第2章 岩国市の維持向上すべき歴史的風致

岩国市における歴史的風致

本市は、瀬戸内海の島嶼部から中国山地の山間地まで広大な面積を有し、県内最大流域を持つ錦川をはじめとした多くの河川や中国山地の森林等の豊かな自然に恵まれています。江戸時代、錦川に面して岩国城下町は築かれ、錦川や街道を通じた毛利家本藩領との往来により、流域の川湊はにぎわいをみせました。本市北部の山代地域では、山に囲まれた集落環境の中で、独自の文化が育まれました。また、山陽道をはじめ、古くから多くの街道が通る安芸と周防国境に当たる交通の要衝として、岩国城下町や玖西盆地の宿場町が栄えました。

それらの場所には、寺社や歴史的建造物、祭礼行事や民俗芸能などの歴史文化が数多く継承されています。

歴史的風致は「歴史まちづくり法」第1条において、「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地環境」と定義されています。

歴史まちづくり法における歴史的風致の定義に基づき、本市が維持向上すべき歴史的風致として、以下の4つを設定しました。

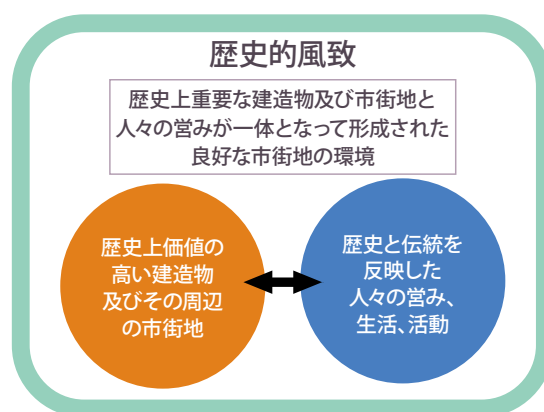


図2-1 歴史的風致の概念図

歴史的風致を構成する要素の取扱について

計画策定後は、歴史上価値の高い建造物や人々の活動について掘り起こしを継続して行い、新たに追加すべき歴史的風致が確認された場合は、計画への追加について協議します。

岩国市における歴史的風致

1. 岩国城下町の営みにみる歴史的風致
2. 錦川の恵みに育まれた営みにみる歴史的風致
3. 山代神楽にみる歴史的風致
4. 玖西盆地の伝統行事にみる歴史的風致

図2-2 岩国市の歴史的風致の構成

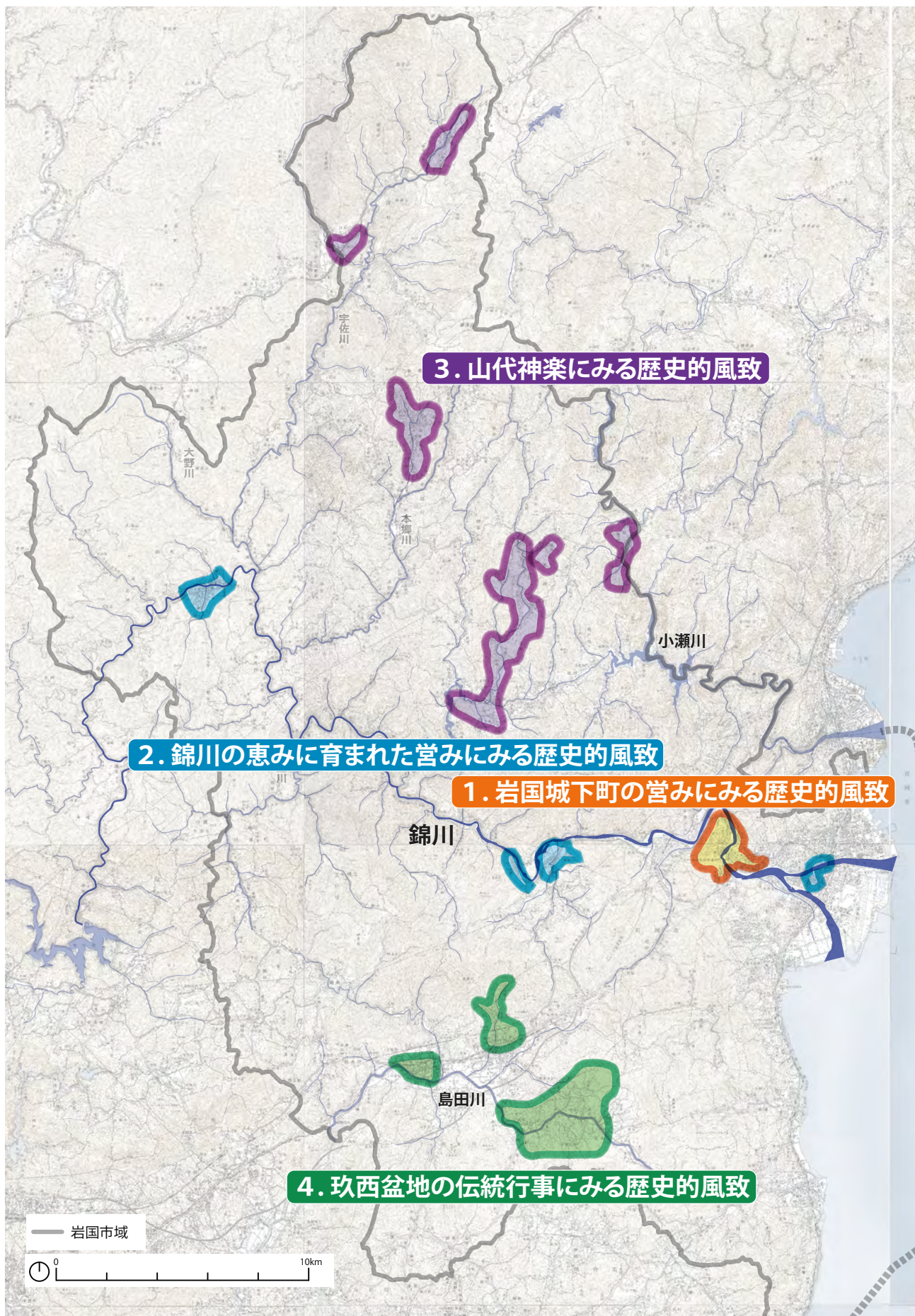


図2-3 歴史的風致の位置図